

2023年度
[2023年4月1日～2024年3月31日]

事業報告

目 次

2023年度事業報告（総括）	1
Ⅰ. 科学技術振興に関する活動の概要	2
Ⅰ－1. 研究助成	2
1. 募集・応募・選出状況	2
2. 第39回(2023年度)マツダ研究助成一覧	3
3. 第39回(2023年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	7
Ⅰ－2. 事業助成	8
1. 募集・応募・選出状況	8
2. 第39回(2023年度)マツダ事業助成一覧	9
Ⅰ－3. 科学わくわくプロジェクト	10
Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要	11
Ⅱ－1. 研究助成	11
1. 募集・応募・選出	11
2. オンライン交流会と贈呈訪問	11
3. 成果報告会	11
4. 第39回(2023年度)マツダ研究助成一覧	12
Ⅱ－2. 市民活動支援	13
1. 募集・応募・選出状況	13
2. 贈呈式	13
3. フォローアップ	13
4. 第39回(2023年度)マツダ市民活動支援一覧	14
Ⅱ－3. 感動塾・みちくさ	15
Ⅱ－4. スタートラインプロジェクト	16
Ⅱ－5. 若者×ツナグバ	17
Ⅱ－6. 大学寄付講義の実施概要	18
Ⅲ. 管理事項の概要	19
Ⅰ. 役員等に関する事項	19
1. 2024年3月31日現在の役員・評議員の名簿	19
2. 役員等の異動状況	19
Ⅱ. 職員に関する事項	19
Ⅲ. 理事会・評議員会等、主な活動事項	20
Ⅳ. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	21
Ⅴ. 登記に関する事項	21
Ⅵ. 附属明細書	21

2023年度 事業報告（総括）

2023年度はコロナが5類となり、世の中が大きく動き出した1年でした。財団の活動もコロナ前の対面での活動が戻りつつあり、目に見えて活性化してきていることを感じます。

こうした中、4月の市民活動支援贈呈式、5月の大学寄付講義、6月・3月の理事会・評議員会、7月の選考委員会、10月～11月の研究助成贈呈訪問、2月の成果報告会などを計画通り行うことで9つの事業を着実に推進することができました。

特に、研究助成贈呈訪問は、30テーマに対して職員全員が手分けして研究先に赴き、贈呈式を行いました。対面でのコミュニケーションはWEB以上の強い絆づくりに結び付くだけでなく、研究環境の現場現物確認、研究内容の肚落ち、新たな研究者とのつながりなどのメリットもあり、すそ野開拓や事業活動との連携という面で有意義な活動だと実感しました。

この経験を踏まえ、我々職員がハブとなり、研究者同士、市民団体同士、研究者と市民団体、研究者と学生をつなぐことで、新たなアイデアや活動の種火を生む役割にも注力していきたいと考えております。

現在も、科学領域の研究者と広島の高校生という通常では接点のない方々をつなげることで、「女子高生が考えるこれからの情報通信」講座の開講や、青少年健全育成の研究者と市民団体がコラボした「地域おこし協力隊」など、少しずつ化学反応を起こし始めています。このような化学反応は、すぐに大きな結果には結びつかないかもしれませんが、あきらめずに継続することが大切です。

「マツダ財団の支援はお金だけではなく、人と人を繋いでくれる」という声が更に多くなるように継続して取り組んで参ります。

科学技術振興関係

① 研究助成（国内／公募）

機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野を対象に27件2,700万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。

② 事業助成（中国地方／公募）

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件150万円の助成を行いました。

③ 科学わくわくプロジェクト（連携事業／参加者公募）

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指し「サイエンスレクチャー」「専門家による科学教室」、教員支援として「小学校理科ひろば」を開催しました。

④ 感動塾・みちくさ（連携事業／参加者公募）

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で2施設で2泊3日の体験宿泊学習を実施しました。

青少年健全育成関係

① 研究助成（国内／公募）

青少年健全育成に係る教育現場及び市民活動の活性化に役立つ汎用性の高い研究4件に計300万円の助成をしました。

② 市民活動支援（広島県・山口県／公募）

青少年の心豊かな成長に繋がる民間の非営利活動28件に計800万円の支援をしました。

③ スタートラインプロジェクト（連携事業／公募）

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。

④ 若者×ツナグバ（広島県・山口県／公募）

若者が社会に希望を持ち自立していくことを目指し、地域社会に貢献する若者の非営利活動を支援しました。

⑤ 大学寄付講義

広島文教大学で「地域と社会」の集中講義を対面で行い、その後、学生はボランティア実習を行いました。

また、広島大学大学院に講師を派遣しディベート演習の講義支援を行いました。

各事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

(1) 募集内容

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③化学系材料、④物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法

公募

(d) 助成金総額

2,700万円 (100万円×27件)

(e) 助成期間

1年または2年

(f) 募集期間

2023年4月10日～5月31日

(g) マツダ研究助成奨励賞

マツダ研究助成対象の中から若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした研究に対して授与する。

副賞(追加助成金) 50万円 × 4件 (各分野1件)

(2) 分野別応募・選出状況

合計238件の助成申請書を受理しました。分野別内訳は、以下のとおりです(選出数/応募数)。

- ・ 化学系材料 8件/68件
- ・ 物理系材料 7件/63件
- ・ 機械 6件/52件
- ・ 物理系材料 7件/55件

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月28日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として28件(内、研究助成奨励賞候補4件)が選出され、第57回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

選出された28名の内、辞退者1名と国内不在者1名を除いた26名の研究者に対して贈呈訪問を行い、贈呈書を送りました。

2. 第39回(2023年度)マツダ研究助成一覧 ー科学技術振興関係ー

助成対象研究の概要は、以下の通りです

◆印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは研究助成奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【機械】		
<p>非鉄系合金の結晶成長方位制御のための熱流最適化と機械的性質への影響 ◆</p> <p>炭素繊維強化プラスチックは任意の方向に繊維を積層させることで優れた機械強度が実現可能である一方、複合材料であるが故に再利用が困難である。一方で金属材料は溶融凝固で組織が再生されるため、再利用が容易である。金属材料に析出する結晶成長と温度の間には密接な関係があり、これを適切に制御することで結晶成長の方向性を制御できる可能性がある。本申請研究では熱処理方法の最適化により金属材料の析出相に指向性を持たせることで複合材料同等の極めて高い機械強度を有する金属材料開発を行うものである。</p>	<p>関 一郎 津山工業高等専門学校 准教授</p>	100
<p>非平衡熱力学に基づくノズル流れの数理的研究</p> <p>本研究では、微細スケールのノズル流れの理解を目的に、新しい非平衡熱力学理論である「拡張された熱力学」を用いた理論的・数値的解析を行う。特に、従来の流体力学理論や気体分子運動論では捉えきれなかった分子内部自由度緩和効果、実在気体効果、階層的な非平衡効果を定量的に検討する。微細ノズル流れの新規現象や非平衡性を利用した流れ制御の可能性を明らかにし、これを用いて微細ノズルを活用した高度な流体制御技術の開発や微細スケール流体科学の基盤構築に貢献することを目指す。</p>	<p>有馬 隆司 苫小牧工業高等専門学校 准教授</p>	100
<p>次世代製造装置のサーボシステムに向けた適応学習と機械学習を融合した超精密繰り返し制御の開発</p> <p>我が国の主要産業である製造業の発展、および競争力強化のため、次世代製造装置への応用に向けた適応学習と機械学習を融合した超精密繰り返し制御に関する研究を行う。次世代製造装置においては、生産性の向上、および多種多様な製造が求められる。この要求に応えるため、本研究では機械学習を用いて動的環境に対する汎化性の高い制御パラメータを導出し、さらに特定条件で制御系を最適化できる適応学習と組み合わせることで、幅広い動作条件に対応できるロバスト性と高精度制御を両立した制御手法を開発する。</p>	<p>藪井 将太 東京都市大学 准教授</p>	S 150
<p>弾性慣性フォーカシングを活用した大きな細胞のための画像活性分取法の開発</p> <p>粒径の大きな細胞の形態と生理活性の関連の解明は、がん治療法の創出など様々な応用展開に寄与する。この目的の達成手段として、マイクロ流路内の細胞を画像に基づき選り分けるインテリジェント画像活性細胞選抜法(iIACS)が有用である。しかし、大きな細胞においては流路内での流れが安定せず、正確な分取が困難である。本研究では、大きな細胞を長い流路内の中心に維持して流せる、慣性弾性フォーカシングに着目した。このフォーカシング法をiIACS装置に組み込むことで、大きな細胞の高精度な画像活性分取を可能にする。</p>	<p>丁 天本 東京大学 助教</p>	100
<p>ヘテロダイン検波を援用した非定常カーボンナノチューブ感温塗料計測の高精度化</p> <p>温度計測に基づいた流体計測技術であるカーボンナノチューブ感温塗料(Carbon NanoTube Temperature-Sensitive Paint, cntTSP)に対して、信号処理手法の一つであるヘテロダイン検波を援用することで、温度計測の高精度化に取り組む。これにより、層流から乱流への流れの境界層遷移の詳細な可視化が可能となる。本研究が完成することにより、100 Hzで変動するmKオーダーの温度変化を“面”で計測する技術の構築を目標とする。</p>	<p>伊神 翼 東北大学 助教</p>	100
<p>対麻痺者向け単一モータ駆動方式下肢アシストデバイスの開発</p> <p>対麻痺患者は歩行が困難となるため、下肢装具を用いた日常生活活動(ADL)の向上を目指すリハビリを行う。HALO ActFreeは、股関節と足関節がリンクし、1つのモータを搭載した軽量かつ装着しやすい歩行アシスト装具である。しかし、膝関節の固定やフットクリアランスの制約があるなどの課題が残っている。本研究では、ActFreeの単一モータ駆動の利点を継承する同時に、上述した課題を解決し、自然な歩行や段差のある道への対応が可能な下肢アシスト装具の開発を目的としている。</p>	<p>裴 艶玲 愛知工科大学 准教授</p>	100
【電子・情報】		
<p>変形型移動機構を備えた小型水上自律移動ロボットの効率的な定点維持と直進移動 ◆</p> <p>本研究では、水圏環境観測のための小型水上自律移動ロボットに効率的な定点維持移動と直進移動が可能な変形型移動機構を搭載し、長期的かつ連続的な観測を実現することを目指す。急速な地球環境の変化により水質や生態系への影響が生じており、従来の人手による観測に代わる水上・水中ロボットに注目が集まっている。本研究では、実環境において定点維持と直進移動を実現する変形型移動機構を研究し、効率的な移動によって長期的かつ連続的な水圏環境観測手法について研究する。</p>	<p>藤井 康之 立命館大学 特任助教</p>	100
<p>エレクトレットにより帯域を拡張するゼロパワー加速度センサの実現</p> <p>MEMS(Micro Electro Mechanical Systems)加速度センサは、カメラの手ブレ補正や車のエアバックシステムなど様々な機能を実現してきた。近年、居住空間やオフィス等の狭い空間に加速度センサを複数配置し生活者の行動を振動によりセンシングすることで、効率的な家電機器使用を行う省エネ技術(HEMS)や感染症予防システム等への新しい展開が期待されている。本研究では、無電源で振動を測定可能なゼロパワー加速度センサを実現する。これにより、小型電池でも長期間の連続駆動を可能とし、振動センシングにより社会課題の解決を目指す。</p>	<p>本間 浩章 神戸大学 准教授</p>	100

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<p>長期トレーニング中のモチベーションをリアルタイムに定量化し評価する手法の開発</p> <p>本研究は、長期トレーニング中のモチベーションをリアルタイムに可視化・定量化して、評価することを目的とする。特にリハビリテーションにおいて、トレーニングごとに多様な生体情報を用いてモチベーションを定量的に解析し可視化する、人工知能(AI)技術を用いて生体情報をリアルタイムで解析しモチベーションの定量化をリアルタイムに実現する、上肢リハビリロボットを用いたトレーニング課題で本当にモチベーションが維持または向上しているのか検証することを通じて、その手法を開発する。</p>	<p>小柳 健一 富山県立大学 教授</p>	100
<p>超高フレームレート動画撮像のためのデータ駆動アルゴリズム設計</p> <p>圧縮イメージングはカメラのフレームレートを超えた時間解像度の動画を撮像するための技術であり、交通監視や自動運転などへの応用が期待されている。しかし、圧縮イメージングにおいて圧縮された観測データから動画を復元する手法の復元精度は、多数のパラメータの設定値に大きく依存する。本研究では、深層学習技術を応用してパラメータの適切な値を自動的に学習する手法を開発し、超高フレームレート動画撮像の実用化のための基盤となる情報処理技術の確立を目指す。</p>	<p>早川 諒 大阪大学 助教</p>	100
<p>希薄窒化物結晶のアンチモンサーファクタント媒介成長と太陽電池応用</p> <p>GaAsPN結晶は太陽電池を高品質かつ低環境負荷に作製するためのキーマテリアルである。しかし、結晶中の原子配列の乱れが太陽電池作製に向けた課題である。最近、申請者は、結晶への放射線照射実験から、原子配列の乱れを解消する新原理[K. Yamane et al., JJAP 61 (2022) 020907.]を発見した。本申請では、この原理を放射線を用いない結晶成長技術へ応用するため、アンチモンサーファクタント媒介成長法(アンチモン添加による成長様式の変調)を検証する。さらに、計算機実験からも成長メカニズムを考察し、結晶中の原子の配列制御の方法を確立する。</p>	<p>山根 啓輔 豊橋技術科学大学 准教授</p>	100
<p>通信障害発生時における有機的なオペレータ間協調アクセス方式に関する多角的な研究</p> <p>本研究では、モバイルネットワーク分野及び6Gの発展に貢献することを目標として、Device-to-Device (D2D)通信を用いて有機的に端末間協調通信を行うことによって、通信障害が発生した際でもサービスの提供を可能にすることや、端末の駆動時間の延長を可能にすることを目指す。更に、本研究では、バッテリー残量がユーザに対して心理的・体感的にどのように影響を与えるのかをアンケートや生体情報から明らかにし、モバイル通信が人に与える影響を確かめ、より人に優しい有効な通信方式の検討に繋げていく。</p>	<p>齋藤 恵 早稲田大学 専任講師</p>	S 150
<p>空と陸のネットワーク基盤におけるモニタリングデータ配信制御方式の提案</p> <p>全てのサービスがアプリケーションのように操作可能となるスマートシティにおけるCity as aServiceを実現させるためには、大量のストリーミングデータを常に処理し続ける情報ネットワーク基盤が必要となる。これまでのネットワーク基盤の研究においては、地上バックボーンネットワークのみに着目した基盤技術開発が主であった。本研究では、空の情報ネットワーク基盤も利用することで、空のモニタリングデータを地上ネットワーク基盤で処理する空と地上のデジタルツインネットワーク基盤を構築し、高画質・低遅延なデータ配送方式を実現させることで、City as a Serviceに寄与することを目的とする。</p>	<p>宮田 純子 芝浦工業大学 准教授</p>	100
<p>【化学系材料】</p>		
<p>静水圧による超分子センサーの動的制御</p> <p>本申請では、最近申請者が垂直に立ち上げている“静水圧による超分子センサーの動的制御”を目的としている。溶液中に等方的にかかる力学の一種として捉えられる静水圧は、弱い相互作用が支配的な超分子系を制御する手段としては最適と考えられている。本申請では、「如何にして静水圧で超分子センサーのヘリシティ反転を引き起こすことができるのか？」を追求する。</p>	<p>福原 学 東京工業大学 准教授</p>	100
<p>有機-無機ペロブスカイト化合物の構造制御と水素発生</p> <p>持続可能な社会に向けて、エネルギー政策は重要な役割を担っている。エネルギーを低炭素に転換する1つの方法として有望視されているのが、水素の利用である。水素は燃料電池の原料ガスとしても用いられる。水素発生には、酸化チタンや半導体、金属錯体などの光触媒が用いられるが、より幅広い波長の光を利用できる光触媒が必要とされている。本研究では、太陽電池材料として非常に注目を集めている有機-無機ペロブスカイト化合物の優れた光吸収能と電荷移動効率を利用することで、効率的な水素発生のための光触媒を得ることを目的とした。</p>	<p>竹岡 裕子 上智大学 教授</p>	100
<p>高温作動型-固体高分子形燃料電池用電解質膜を指向し、粒子間架橋による3次元伝導経路を構築した電解質膜の創製</p> <p>高温作動型-固体高分子形燃料電池用の新規電解質膜を開発し、水素社会実現の一助とする。本研究では、ナノ粒子表面に高温環境(100℃以上)でのプロトン伝導を実現可能な高分子化イオン液体(PIL)を被覆した機能化ナノ粒子を作製し、粒子同士を架橋することで新規電解質膜を作製する。この電解質膜では、機能化ナノ粒子表面が2次元伝導経路となる。さらに、粒子間で架橋(接続)されることで、巨視的には、PILが連続した3次元プロトン伝導経路を形成し、HT環境下での高プロトン伝導を可能とする。</p>	<p>増原 陽人 山形大学 教授</p>	100

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<p>再利用可能かつ強靱なイオンゲル材料の開発</p> <p>医療・IoTの分野において、ウェアラブルデバイスの発展に繋がる柔らかくしなやかな電気化学材料が望まれている。一方で、何度も曲げ伸ばしできる強靱性と使用後の再利用可能性の両立は、克服すべき課題の一つである。本研究では、揮発しないイオン伝導性の液体である「イオン液体」と高分子網目からなるイオンゲルを用いてこの課題の解決を目指す。(1)熱で溶ける網目を使った再利用可能な高分子網目(2)高分子が延伸して規則的に並ぶと強靱になる「伸長誘起結晶化現象」、の2つの活用による新規材料開発を目指す。</p>	<p>橋本 慧 岐阜大学 助教</p>	100
<p>ルイス酸部位を有する錯体ナノ空間を用いた省エネルギーアンモニア分離</p> <p>アンモニア(NH₃)は高いエネルギー密度を持ち、燃焼時に二酸化炭素を排出しないことから次世代のエネルギー資源として注目されている。しかし、冷凍凝縮を介した分離にかかるエネルギーやNH₃の毒性から、効率的な分離法および高感度なセンシング材料の開発は窒素循環社会の実現における重要な課題である。本研究では、NH₃の選択的吸着を可能にする発光性錯体・錯体格子を合理的に構築し、高効率なNH₃分離の実現、さらにNH₃分離を光学的に検出可能な多機能性材料の創出および機構解明に取り組む。</p>	<p>芳野 遼 東北大学 助教</p>	100
<p>正浸透膜分離への応用を指向した動的共有結合を有するポリマーの化学構造制御による高性能駆動溶液の開発</p> <p>従来の逆浸透膜(RO膜)法よりも省エネルギーな膜技術として、正浸透膜(FO膜)法が注目されている。正浸透膜法にて効率的な海水淡水化を行うためには、高い浸透圧を有し、さらに水から溶質(駆動溶質)を容易に回収できる駆動溶液が必要不可欠である。本研究では、刺激に応答して可逆的に結合・開裂することのできる動的共有結合を利用し、高浸透圧を示す分子構造と水から容易に回収できる分子構造とを任意に制御することで、高い浸透圧と水からの容易な回収性を両立する駆動溶質の開発を目指す。</p>	<p>松岡 淳 神戸大学 助教</p>	100
<p>ナノシート積層型ナノファイバーと複合化された環境適合型高機能高分子材料の開発</p> <p>本研究では、我々が最近開発した新素材である「ナノシート積層型ナノファイバー(NSナノファイバー)」を複合化した、環境適合型の高機能高分子材料を開発することを目的とする。具体的には、NSナノファイバーを導入した高強度ゲルおよびエラストマーの合成を試みる。NSナノファイバーは、積層した単分散無機ナノシートから形成されている。構造単位が非共有結合で連結したファイバーであるため、オンデマンド分解特性の付与も可能で、サステイナブルな新規ナノファイバー材料としての応用が期待される。</p>	<p>宮元 展義 福岡工業大学 准教授</p>	S 150
<p>マルチポッド型単分子膜材料の開発とペロブスカイト太陽電池への応用</p> <p>本研究では、ペロブスカイト層からの正孔を回収する材料に着目し、独自のマルチポッド型正孔回収単分子膜材料の開発に取り組む。これらの材料では、上下のペロブスカイト層および電極基板のそれぞれに対して face-on に配向制御できるため、効率的な電荷回収が可能であり光電変換効率の向上が期待できるとともに、耐久性も飛躍的に向上する。この革新的な単分子膜材料の開発により、これまで有機半導体材料の欠点に由来していた導電性や耐久性などの課題を解決し、ペロブスカイト太陽電池の長期耐久性と高い光電変換効率(>23%)を実現する。</p>	<p>TRUONG MINH ANH 京都大学化学研究所 助教</p>	100

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
表面弾性波による非接触高感度生体マイクロゲルセンサの開発	倉科 佑太 東京農工大学 准教授	100
水を主成分としたハイドロゲルの中で、外部刺激に応じて反応する高分子が生み出されてきた。この刺激応答性高分子を用いたセンシングデバイスは、環境負荷が低く、人体にもやさしいことから循環・省資源を目指した現代社会において、理想的な材料として期待されてきた。しかし、従来のセンシング方法ではハイドロゲルの変化量の評価が困難であった。そこで、本研究では、刺激応答性高分子と超音波に着目した新しいハイドロゲルの生体センシングデバイスを開発することを目的とした。		
空間反転対称性の破れた超伝導体における交差相関現象の創製	成田 秀樹 京都大学 特定助教	100
これまで強磁性体や反強磁性体を用いた超伝導の制御は数多く試みられてきたが、その逆である「超伝導による磁性の制御」の報告はほとんどない。本研究で、超伝導電流による磁性の制御が確立できれば、エネルギー損失が極めて少なく、ゼロ磁場で動作する超伝導デバイスの発展に繋がる。また、電流による磁性の制御を超伝導体で実現することは、超伝導体のスピントロニクスへの応用だけでなく、電流を新たな制御パラメーターとした非平衡定常状態下における超伝導の研究の開拓にも繋がると思われる。		
金属有機構造体の極性置換基を利用したカルシウムイオン電池の開発	清水 剛志 米子工業高等専門学校 特命助教	100
カルシウムイオン電池(CIB)は、電解液中のカルシウムイオンCa ²⁺ を正極と負極上の活物質に挿入脱離することで充放電でき、理論的には現行のリチウムイオン電池の2倍の体積エネルギー密度をもつ次世代蓄電池として注目されている。しかし、電解液中の極性分子と強く溶媒和するCa ²⁺ は正極活物質に挿入しづらいため、CIBの容量および充電時間の改善は困難だった。本研究では、極性置換基をもつ金属有機構造体によって正極/電解質界面でCa ²⁺ の脱溶媒和を促し、実用的なCIBを開発する。		
酸化物を導電体媒介層とする絶縁体への貴金属フリーめっき技術の開発	清水 雅裕 信州大学 准教授	100
本研究では、不導体の表面処理におけるプロセスイノベーションとして、酸化物を媒介層とする貴金属フリー電気めっきに挑戦する。不導体上に塗布した酸化物へのプロトン挿入に基づく導電体化によりめっき反応を進行させる。従来の無電解めっきで使用されるPdやPtなどの触媒貴金属が不要となり、圧倒的な低コスト化が狙える。これにより、無電解めっきにおいて毒性や発がん性が指摘されている錯化剤や還元剤も一切不要となる。本プロセスは量産への展開も可能であり、従来の表面処理を刷新する可能性を秘めている。		
導電性高分子を用いた新規固体放射線検出器の放電制御方法の研究	深澤 永里香 群馬工業高等専門学校 助教	S 150
申請者は有機材料(ポリアニリン)を用いた新規放射線検出器の開発を行っている。半導体放射線検出器の材料である無機半導体は高コストであり、高純度結晶のために曲面加工が困難なことから、検出器の作製において実質的制限が生じる。多様化する検出器への要求や無機半導体デバイス開発の研究資源枯渇といった問題に対して有機半導体を用いた新しい検出器開発から解決を目指す。 本研究では実用化に向けて放電によるセンサの動作不安定性を解決すべく、最適なクエンチャーの探索を行う。		
外部歪みによる核四極子相互作用チューニングと核偏極操作の実証	鍛冶 怜奈 北海道大学 准教授	100
今日、半導体結晶での核四極子相互作用(NQI)が再注目されている。核偏極の「安定化」と「緩和」の両方に寄与するNQIは、強い有効磁場として核スピン系のエネルギー構造を大きく変化させ、新規物理現象のソースとなり得ることから、本相互作用の理解を深めつつ、その制御法を模索することは核偏極の応用範囲を拡大する上で不可欠である。本申請課題では、NQIの影響下における電子・核スピン結合系の物理を深く理解すると共に、NQIをチューニングノブとした非平衡核偏極の制御法を開発することを研究目的とする。		
合計	27件	2,900

3. 第39回(2023年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 ー科学技術振興関係ー

マツダ研究助成奨励賞は、助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした各分野1件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註)研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	次世代製造装置のサーボシステムに向けた適応学習と機械学習を融合した超精密繰り返し制御の開発	藪井 将太 東京都市大学 准教授
選考理由	機械学習等を使用して、制御系でサーボシステムの高精度化を図る研究であり、既存のハードウェアの精度限界を超える領域まで踏み込んでいる点が高く評価される。位置決め制御性能30%向上とする研究目標についても、これまでの研究実績から達成できる可能性が高いと判断する。本研究成果により、部品移動時間の短縮による生産性向上と、組立部品更新などの環境変化に即応できる新システム構築が期待できる。	
電子・情報	通信障害発生時における有機的なオペレータ間協調アクセス方式に関する多角的な研究	齋藤 恵 早稲田大学 専任講師
選考理由	本研究は、Device-to-Device通信による端末間協調通信によって、通信障害が発生した際のサービス維持や、端末の駆動時間の延長を可能にすることを目指しており、その社会的意義が極めて高い。また、研究課題として、本システムの有効性検証に加えて、ユーザーに与えるストレス影響を生理計測まで用いて解明するなど、本研究は独創的且つ、先進的な内容である。今後の展開が大いに期待できる本研究に奨励賞を贈呈する。	
化学系材料	ナノシート積層型ナノファイバーと複合化された環境適合型高機能高分子材料の開発	宮元 展義 福岡工業大学 准教授
選考理由	申請者が開発した「ナノシート積層型ナノファイバー(NSナノファイバー)」を複合化した、独創性の高い、環境適合型の高機能高分子材料を開発することを目的としている。この材料は、構造単位が非共有結合で連結したファイバーであるため、オンデマンド分解特性の付与も可能であり、サステイナブルな材料としての応用が期待され、早期の技術確立と実用化に向けた進展が大いに期待される。よって、奨励賞を授与する。	
物理系材料	導電性高分子を用いた新規固体放射線検出器の放電制御方法の研究	深澤 永里香 群馬工業高等専門学校 助教
選考理由	本研究は、有機材料を用いつつ、放電抑制を行うことで新規放射線検出器の開発を目指している。既存の無機半導体では高い製造コストや大面積化が困難であったが、フレキシブル性を有する有機材料の利点を生かすことで、様々な応用展開が期待できる。既に本申請に関わる萌芽的な研究成果も出ており、今後の研究展開が大いに期待される。この独創的で先進性に富む秀逸な研究に対し奨励賞を贈呈する。	

I - 2. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

(1) 募集内容

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等に属する研究者及び非営利団体が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした科学体験に関する事業や研究会等に助成することで、科学技術振興を推進します。

(b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校、高等学校、非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主たる著者によって実施される以下の活動。

- ・ 「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法

公募

(d) 対象地域

中国地方

(e) 助成金総額

150万円（15件、7～10.5万円/件）

(f) 助成期間

2023年6月1日～2024年5月31日

(g) 募集期間

2023年4月3日～5月8日

(2) 応募状況

本年度は、31件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

・鳥取県	5件	・広島県	13件
・島根県	4件	・山口県	4件
・岡山県	5件		

(b) 分野別

(1) 体験事業の開催	25件
(2) 研究会等の開催	3件
(3) 成果出版物の発刊・教材等の試作	0件
(4) その他	3件

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月18日）において慎重に審査され15件が選出されました。

2. 第39回(2023年度)マツダ事業助成一覧 —科学技術振興関係—

事業名	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
体験化学教室	東広島市	石原 康宏 広島大学教授	2023/08/09 ~ 2023/08/10	10.5
岡大ライス博士ジュニアを目指そう!	岡山市	齊藤 邦行 岡山大学特任教授	2023/06/24 ~ 2023/10/14	7
「文武一道」を目指した、部活動と探究活動の融合 ～日本最高峰の舞台へ～	広島市	西 武宏 広島県立祇園北高等学校教諭	2023/06/01 ~ 2024/05/31	10.5
みんな集まれ! ワークショップまつり2023	呉市	林 悦子 大和ミュージアム工作教室等 運営事務局長	2023/08/19 ~ 2023/08/20	10.5
ISOS 公開講座・こども化学実験教室	東広島市	今榮 一郎 広島大学准教授	2024/05/12 ~ 2024/05/12	10.5
教育用マイコンと電子回路によるプログラミング 体験学習会の開催	山口市	野村 厚志 山口大学教授	2023/07/24 ~ 2023/03/20	10.5
まるごと徳山高専2023 ～子供たちの“心”を育む モノづくりワークショップ～	周南市	宮崎 亮一 徳山工業高等専門学校准教授	2023/07/16 ~ 2023/07/16	10.5
作ろう・飛ばそうモデルロケット	津山市	山田 貴史 津山工業高等専門学校准教授	2023/08/05 ~ 2023/08/06	10.5
アダプテッド・スポーツを通じて体の機能と用具の 工夫を学ぶ	米子市	大野 政人 米子工業高等専門学校准教授	2023/07/15 ~ 2023/11/25	10.5
高速印刷可能な3Dプリンタによる一連の造形体験 を通した「ものづくり」への触れ合い	米子市	川戸 聡也 米子工業高等専門学校講師	2023/08/17 ~ 2024/03/31	7
学生主体の講義・実習♪ ～ビュートバランサーを用いて、数学・物理・制御 を感じよう～!	松江市	木村 憲二 松江工業高等専門学校講師	2023/06/01 ~ 2024/02/29	10
ドローンの操縦体験を通じて飛ぶ仕組みを学ぼう!	松江市	片山 優 松江工業高等専門学校准教授	2023/07/01 ~ 2023/08/31	10.5
STEAMコース主催 ブランクトン調査体験講座/ロボット体験講座	広島市	橋倉 彰宏 安田女子高等学校教諭	2023/06/01 ~ 2024/04/30	10.5
公開講座「エジソン・スクール」	呉市	篠部 裕 呉工業高等専門学校 協働研究センター長	2023/06/01 ~ 2024/03/31	10.5
小・中学生向け科学イベント 「わくわくサイエンスショー」	呉市	林 和彦 呉工業高等専門学校センター長	2023/06/01 ~ 2024/03/31	10.5
合計		15件		150万円

I-3. 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・ 現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・ 財団と大学の連携事業である。
- ・ 多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・ 教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：広島大学 林 武広 名誉教授（元比治山大学副学長・教授）

(3) 主要事業

① サイエンスレクチャー

（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

今年度は3学期に5つの中学校・高等学校にて対面方式で実施。

テーマは「宇宙の構成」「広島花崗岩について」「ブラックホールとガンマ線バースト」「キャリア形成—理系への期待」「恒星宇宙の広がり」の5つ。

② 専門家による科学教室(旧ジュニア科学塾)

（理科好きの中高生が高度な科学内容を学ぶことを通して先端的科学への関心を高め、学ぶ意欲を育む集中講義）

科学関連施設の見学などの「体験講座」2件、中学校の授業に出向いて「教員と連携した理科授業」2件・個人向け指導「科学の探究」1件

③ 小学校理科ひろば

（小中学校理科授業充実のための教員支援として、小学校高学年理科出前示範授業及び現職教員研修）

26校で4年生、5年生及び6年生理科の特別授業を、のべ49回対面で実施。

テーマは、4年生「夏の月と星」「冬の月と星」、5年生「流水の働きと土石流、津波」「天気の変化」「自然災害と防災」、6年生「月と太陽」「土地のつくりと地層」など多彩な授業を実施。

(4) マツダ財団負担金

50万円

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出

(1) 募集

(a) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る教育現場及び市民活動の活性化に役立つ汎用性の高い研究（基礎的研究を含む）を対象とします。

対象研究分野：①ボランティア育成 ②若者の居場所づくり ③地域連帯・コミュニティづくり
④自然とのふれあい ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり

(b) 募集地域

全国

(c) 助成期間

1年または2年

(d) 助成金総額

300万円（1件の上限100万円、4件）

(e) 募集期間

2023年4月15日～6月15日

(2) 応募と選出

コロナが落ち着き、選考委員会（二次審査）を対面で実施、応募48件の内4件を選出し、理事会において正式に承認決定されました。

2. オンライン交流会と贈呈訪問

今年度は、10月に新規採択者とオンライン交流会を行い、10月から11月にかけて贈呈訪問を行いました。

3. 成果報告会（市民活動支援と合同開催）

2022年度に続き、対面での成果報告会を実施しました。研究と実践の融合を図るため、2023年度に終了する市民活動25団体との合同開催とし、他にも市民活動に興味をお持ちの一般の方にもご参加いただきました。選考委員の明石先生の基調講演（テーマ：「少子化時代に対応した教育『地域を育てる教育』の推進」）を皮切りに、ポスターセッション（研究者・市民団体）、パネルディスカッション（テーマ：青少年と地域のかかわりについて）を実施しました。

4. 第39回(2023年度) マツダ研究助成一覧 – 青少年健全育成関係 –

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
<p>仮想空間上の教育支援センターにおける不登校傾向の子どもの居場所づくり</p> <p>長野市は不登校傾向にある児童生徒の居場所として、教育支援センターを新たに設置する。この施設では通所をして学ぶことが前提となるが、様々な理由から施設に通えない子どものために、仮想空間上に仮想センターをつくり、オンラインでも通うことができる体制を整える。その上で、仮想センターは児童生徒の居場所となり得るのか、仮想センターに通所することでどのような効果をもたらすのかをアンケートや行動ログの分析により明らかにする。そして、仮想空間上での不登校支援の事例として、取り組みを発信していく。</p>	<p>三和 秀平 信州大学教育学部准教授</p>	80
<p>オンラインを活用した子ども支援活動におけるスタッフの専門性とその向上に関する研究</p> <p>本研究は、新型コロナウイルスの流行以降急速に広がったオンラインサービスを活用した子ども支援活動において、ボランティアとして活動する人々に求められる専門性を明らかにするものである。さらに、その専門性の獲得に向けた具体的方策を提案する。そのために、ボランティアに取り組んでいる人々へのインタビュー調査および質問紙調査を実施した上で、実際の研修パッケージを作成する。研修パッケージについては積極的に公開し、オンラインを活用したボランティア活動に取り組む団体が活用できるようにする。</p>	<p>伊藤 駿 広島文化学園大学学芸学部講師</p>	80
<p>子と親を支える居場所づくりに向けた「つくる」を軸にする地域創発型方法論の開発</p> <p>本研究は、不登校児童生徒の増加にともない親子のための第三の居場所づくりが課題となっていることを受け、神戸市須磨区多井畑地区の古民家改修での実践を通して「農福連携」を超えた「つくる」を中心とする地域創発型の居場所づくりの方法論の開発を目指す。本実践では、研究室の支援の元、地域住民や利用者とともに地域資源を結びつける制作アトリエ兼農地併設の子どもと大人の居場所の計画・設計の実践を行い、若者を核とする地域の居場所づくりのプロセスを開発・評価することで、その方法論を構築するものである。</p>	<p>西野 雄一郎 大阪公立大学大学院工学研究科講師</p>	80
<p>知的障害や発達障害がある青少年を対象としたVRによる旅行支援に関する研究～客観的・主観的なストレス評価を通して～</p> <p>知的障害や発達障害がある方の中には、未知の空間に行く旅行に心理的負担を感じる場合がある。このことから、修学旅行や観光が負担になる現状がある。そこで本研究では、現実空間をデータ化するデジタルツインによるVRコンテンツを開発し、観光地が用意するパンフレットとの比較から、その有効性を検討する。はじめに、知的障害や発達障害がある高校生を「VR群」「パンフレット群」に分ける。次に、実際に観光地に行き、旅行中のストレスに与える影響を定量的に分析するため、唾液によるストレスチェックを行う。</p>	<p>立石 力斗 近畿大学九州短期大学講師</p>	60
合 計	4件	300万円

Ⅱ－２．市民活動支援

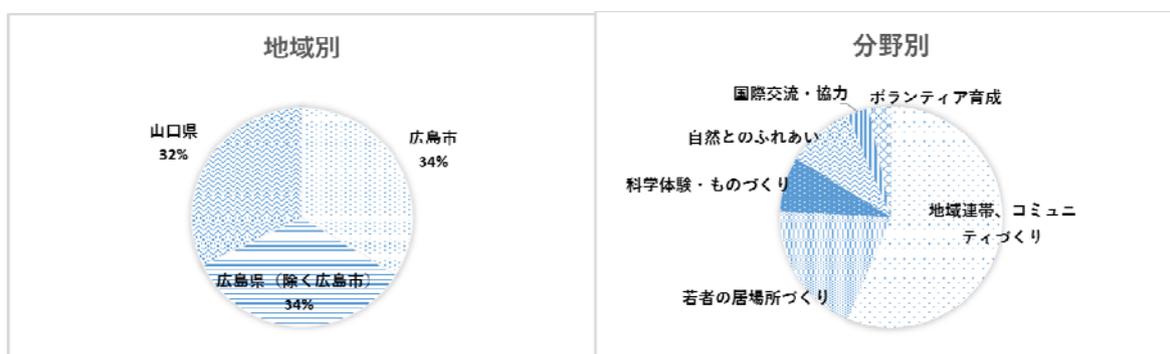
１．募集・応募・選出状況

(1) 募集

- (a) 対象活動・分野 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動
「ボランティア育成」「地域連帯・コミュニティづくり」「若者の居場所づくり」「自然とのふれあい」
「国際交流・協力」「科学体験・ものづくり」
- (b) 募集地域 広島県、山口県
- (c) 支援期間 単年度支援 2023年4月1日～2024年3月31日の1年間
- (d) 支援金総額 800万円 (1件当たり支援金額10万円～50万円)
- (e) 募集期間 2022年10月14日～2023年1月15日

(2) 応募状況

本年度は、62件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。



(3) 支援対象団体の選出

選考委員会（2023年2月24日開催）での審議の結果、支援候補として28件が選出され、2023年3月開催の理事会において正式に承認決定されました。

２．贈呈式

広島県内の20団体および山口県内の8団体に対して、支援金を贈りました。贈呈式は4年ぶりに広島県と山口県の2会場において、それぞれ4月12日と4月19日に対面で開催しました。

３．フォローアップ

(1) オンライン交流会

今年度は7月～8月に5回に分けて、少人数単位でのオンライン交流会を行いました。残念なことに、山口県において発生した6月30日からの大雨災害の影響を受け参加できなかった団体もおられ最終的に21団体29名の皆様にご参加いただきました。

(2) 活動見学

活動の活発化に伴い、20団体を訪問しました。

(3) マツダ財団サロン（オンライン）

2021年度より実施しているオンラインサロンを9月27日「地域おこし協力隊」をテーマに開催しました。今年度支援団体に限らず過去に支援した団体含め、今回のテーマに関心がある11名が集い意見交換しました。研究発表と活動発表の両方を組み合わせ、お互いに有意義なサロンとなっています。

(4) 成果報告会（研究助成と合同開催）

今年度は28団体が終了されました（1団体は来年度に延期。また、コロナ禍で全前年度から延期された1団体を含む）。2024年2月12日に、研究助成と合同で対面での成果報告会を開催し、盛り上がりました。

4. 第39回(2023年度) マツダ市民活動支援一覧 –青少年健全育成関係–

活 動 名	団 体 名	地 域	金額 (万円)						
人権紙芝居の読み聞かせ人材育成と普及活動	おんぷのまちプロジェクト	安芸郡府中町	41						
結成15周年記念 和☆Rockライブ2023	Japanese Drum 和☆Rock	呉市	30						
誰もが主体的に関わり、発見がある場づくり	あいだす	呉市	40						
子どもたちと作る矢野豪雨災害の紙芝居	矢野豪雨災害かみしばい製作委員会	広島市安芸区	17						
多様性の中で各々が輝ける場や機会を作る コミュニティづくり ～インクルーシブ交流・ あそびばの提供～	ぽこぽこトレイン	広島市安佐南区	24						
ふかわ子ども食堂	ふかわ子ども食堂	広島市安佐北区	17						
子どもの放課後学習支援	宿題やつつけ隊	広島市佐伯区	31						
昔遊びの伝承と指導 地域イベントの応援	やはた昔遊びの会	広島市佐伯区	10						
ヒロシマG7開催記念 ヒロシマ復興絵おと芝居 公演事業	一般社団法人 まち物語制作委員会	広島市西区	30						
中学生がつくる冒険あそび場 「ワンダふるたパーク」	このまちにくらしたいプロジェクト	広島市西区	10						
妙聲寺ほのぼの寺子屋	妙聲寺ほのぼの寺子屋	広島市西区	10						
子ども食堂の運営	「うつくしの杜」子ども食堂	広島市中区	15						
ものづくりチャレンジラボ! ～科学のふしぎを楽しみ、失敗から学ぶ～	子どもとつくる科学遊び研究会	広島市東区	24						
グローバル時代に、夢を持って自分らしく 生きていく力を養う小学生のための放課後 インターナショナルスクール	みんなの家 House For All	広島市南区	30						
20周年記念事業	NPO法人 ほしはら山のがっこう	三次市	45						
和げん「新月マルシェ」 & お出かけ「満月マルシェ」	口和「新月マルシェ」の会	庄原市	24						
軛から始める！子ども主体の地域診断 プロジェクト	軛のくらしの診療所	福山市	30						
小学生の自由な発想力を育むイベント運営クルー体験 型ものづくりワークショップの実施	Project SMILE	福山市	44						
「福山のばら」でお香開発	子どもが科学に親しむ場を創る会	福山市	30						
高校生マイプロジェクトアワード広島県Summit	一般社団法人 まなびのみなど	豊田郡大崎 上島町	45						
デジタルを活用した生徒と住民参画型の 自転車マップづくりと交通安全教育	うべ交通まちづくり市民会議	宇部市	20						
ふくろう公園インクルーシブday	遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会	岩国市	30						
島田川流域と海を結ぶSDGsアクション パートII	ひかりエコメイト	光市	30						
山口市在住の高校生を対象とした地域課題を解決する ための実践プロジェクト	山口トップランナープロジェクト (YTP)	山口市	45						
体験は学びのDIY 孤立解消・繋がる支援	一般社団法人 Happy Education	山口市	40						
美祢市 軽音楽部	美祢市軽音楽部	美祢市	44						
中学校地域部活動に伴うバドミントン教室	地域総合型スポーツクラブ防府	防府市	28						
防府市の子育て応援隊	子育て応援隊 ままはあと	防府市	16						
合 計	28件	800万円	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>広島県</td> <td>20件</td> <td>547万円</td> </tr> <tr> <td>山口県</td> <td>8件</td> <td>253万円</td> </tr> </table>	広島県	20件	547万円	山口県	8件	253万円
広島県	20件	547万円							
山口県	8件	253万円							

Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、１９９８年度から実施しています。

(2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市三滝少年自然の家

・２０２３年８月１７日～８月１９日 ２泊３日

・参加者：小学４～６年生 参加３２名（応募総数２４５名）

「光のふしぎ・発見・感動体験」 光に係る実験や工作、自然体験を通して光の不思議について学ぶ。

プログラム①「光のふしぎ」 ②「生活の中の光・星空観察」

③「光りをとらえよう１」 ④「光りをとらえよう２」

⑤「キャンプファイア」 ⑥「光りの特性を利用しよう」

② 広島市青少年野外活動センター

・２０２３年８月１８日～８月２０日 ２泊３日

・参加者：小学３～４年生 参加３０名（応募総数１２１名）

「火」をテーマに実験・観察を行い、火と人との関わりについて学ぶ。

プログラム①「火と人との関わり」 ②「燃焼の秘密を知ろう」

③「仲間作りゲームと花火大会」 ④「火おこし」

⑤「野外炊飯」 ⑥「広島ガスサイエンスショー」

⑦「キャンプファイア」 ⑧「火を活用しよう」

(4) マツダ財団負担金

１００万円

Ⅱ-4. スタートラインプロジェクト

(1) 内容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）および「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、2013年度から実施しています。

(2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

(3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行いました。

① 被虐待児等の成長を支援するプログラム

- ・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、自分の強み弱み分析、マネー講座、就職活動支援、進学支援、学習支援、レクリエーション活動、退去者への生活支援などを行いました。

- ・対象者：今年度の「ピピオの家」の入居者 9名、「はばたけ荘」の入居者 6名

② スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第13回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」（全6講）の実開催

- ・参加者：17名受講

その他、以下の活動を支援しました。

2023年9月30日～10月1日 子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 広島への参加

「ピピオの家」「はばたけ荘」運営のためのスーパーバイザー派遣によるケース会議の実施（計10回）

(4) 支援金

50万円（マツダ財団負担分）

Ⅱ－５．若者×ツナグバ

(1) 内容

「若者×ツナグバ」は、高齢化社会や格差社会が進む状況下で、青少年の最終ステージともいうべき「社会人になる直前の若者」「社会に出て間がない若者」が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援することを目的として、若者が地域社会のために行う非営利の活動を支援します。

(2) 募集内容

- ・対象地域：広島県・山口県
- ・対象団体：若者自身が企画し、社会貢献を行う団体。若者が5名以上の団体で、代表者も若者であること。

若者の定義は、2023年4月1日時点で満18歳以上30歳未満の人。

- ・支援期間：単年度支援 2023年4月1日～2024年3月31日の1年間
- ・支援金総額：60万円（30万円×2団体）
- ・募集期間：2022年10月14日～2023年1月31日

(3) 審査

- ・書面審査とプレゼン審査を行い、当事業の趣旨に合致した2団体を選出決定しました。

(4) 支援団体（社会人1団体、大学生1団体）

- ① 島会議 呉市・広島市佐伯区 「島しょ部における空き家の再生。地域と若手クリエイターの共創。」
- ② 自然でトノウ会 東広島市 「リアルでつながる喜びを。焚き火を通したデジタルデトックス。」

(5) フォローアップ

① 顔合わせ交流会と定期交流会（オンライン）

4月6日に、新メンバーと事務局による顔合わせ交流会を実施し、その後、イベント開催月を除き隔月で定期交流会を実施し、活動状況の共有や意見交換を行いました（6/30, 11/1, 1/23）。毎回、各団体2名程度参加。

③ 第2回若ツナフェスタ（対面）

8月27日に広島県呉市豊町久比（大崎下島）で2団体のメンバーが集結して、地元の人たちも含めたイベントを開催しました。地域の課題解決に取り組む彼らは、交流しながら、それぞれの悩みや成功事例などについて意見交換をしていました。

④ 第3回若ツナサミット（オンライン）

12月23日に今年度の各団体の成果報告会を兼ねた若者の意見交換会を実施しました。今回は今年度支援団体7名（島会議5名、自然でトノウ会2名）に加えアドバイザーやOG、若者を含む招待者や一般参加者にマツダ財団を加えた総勢20名が集いました。意見交換会では、「仕事・学業と市民活動を両立するための工夫」「若者に・大人に言いたいコト/聞きたいコト」の2つのテーマについて活発な議論が行われました。

II-6. 大学寄付講義の実施概要

マツダ財団の寄付講義は、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて、次世代を担う学生と共に考える「双方向」の講義を目指しています。その内「ボランティア」の講義は2000年度から一般社団法人教育ネットワーク中国のお力添えで、2年ごとに開講大学を替えながら「単位互換科目」として広く県内の大学生に受講していただいています。

■ 「ボランティア活動」

(1) 「ボランティア活動」本講義の目標と特色

本講義は、集中講義とボランティア実習を組み合わせた構成としています。まず、集中講義でボランティア活動に必要な基本的知識や方法を学び、その後、実際にボランティア活動を実践することで、活きた知識・方法を身に付け、自ら感動を体験してもらいたいと考えています。青少年健全育成に関する専門家やボランティア団体による分かりやすい集中講義とボランティア実習を伴うユニークな内容となっています。

(2) 「ボランティア活動」講義の概要

授業科目名「地域と社会」

日時：2023年5月27日(土)、6月3日(土)、9:10~16:20 (4コマ×2日間)

場所：広島文教大学

講師：大学教員2名、ボランティア団体4名、マツダ㈱1名、マツダ財団1名

(3) ボランティア実習

各自でボランティア実習先を探し、夏休みなどを利用して実施

実習の条件

- ・期間は6月4日～8月31日の間。
- ・実働30時間以上、あるいは2泊3日以上であること。
- ・小・中学生とのふれあいのあるボランティア活動。

(4) レポート提出と単位認定

ボランティア実習終了時にレポートを提出し、「集中講義の出席」、「ボランティア活動への参画」、「レポート」の3点により評価し単位認定する。

単位認定14名

2020年初より発生した新型コロナウイルスも落ち着き、久しぶりに特段制限のない中で、対面授業やボランティア実習に取り組むことができました。ボランティア実習の終了後に提出されたレポートから、受講生一人ひとりが、初めての实習先で戸惑いながらも、子供たちと真剣に向き合い成長していく姿が伝わってきました。

■ 「ディベート演習」

社会人として活躍するために必要な一連のスキル（情報収集、分析、体系的にまとめて論じ相手から理解される）を身につけられるディベートを、自ら体験し醸成することを目的としています。

(1) 授業科目名「コミュニケーション能力開発」

日時：2023年6月9日(金)～7月28日(金) (全15回)

場所：広島大学（統合生命科学研究科）

(2) 授業科目名「ディベート実践演習」

日時：2023年10月6日(金)～11月24日(金) (全8回)

場所：広島大学（先進理工系科学研究科）

講師：大学教員1名、団体職員1名、マツダ財団2名

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅰ. 役員等に関する事項

1. 2024年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	菖蒲田 清孝	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 専務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	井 上 紀 文	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	漆 原 正 浩	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	大 下 浄 治	広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授
理 事		非常勤	岡 島 鉄 也	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学 名誉教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	前 田 真 二	マツダ株式会社 財務本部本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学 名誉教授
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学学長
評 議 員		非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社 相談役
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	高 田 輝 和	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	高 見 明 秀	マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	長 尾 ひろみ	瀬戸内グローバルアカデミー代表
評 議 員		非常勤	森 永 力	県立広島大学学長
評 議 員		非常勤	矢 吹 彰 広	広島大学工学部長
評 議 員		非常勤	山 田 陽 一	山口大学工学部長、大学院創成科学研究科長
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学 名誉教授
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 名誉相談役

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

・井上 紀文氏は2024年3月31日に理事を退任し、大塚 宏明氏が2024年4月1日より理事に就任。

Ⅱ. 職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事 務 局 長	井 上 紀 文	・事務局統括
事務局長代理	加 藤 貴 史	・理事会、評議員会等の運営に関する事項 ・主として、事業計画・財務・会計に関する事項 ・広報等に関する事項
事務局長代理	朝 野 千 明	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局長代理	佐々木 寛治	・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局長代理	本 郷 佳 加	・大学講義開講に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項

Ⅲ. 理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第55回理事会	2023年6月2日	第1号議案 2022年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補7名推薦の件 第3号議案 第20回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1) 2023年度科学技術振興関係事業助成の件 2) 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第56回理事会	2023年6月23日	第1号議案 代表理事選定の件 第2号議案 理事長及び専務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第57回理事会 (決議の省略)	2023年9月13日	第1号議案 第39回(2023年度)科学技術振興及び 青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第40回(2024年度)青少年健全育成 市民活動支援計画決定の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第58回理事会	2024年3月13日	第1号議案 2024年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第40回(2024年度)市民活動支援対象 (青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 選考委員1名選出の件 [報告事項] 1) 職務執行の状況 2) 中期事業計画について	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第59回理事会 (決議の省略)	2024年3月20日	第1号議案 事務局長交代の件 第2号議案 理事候補1名推薦の件 第3号議案 常務理事及び業務執行理事選定の件 第4号議案 第21回評議員会招集に関する件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第20回評議員会	2023年6月23日	第1号議案 2022年度決算承認の件 第2号議案 理事7名選任の件 第3号議案 評議員1名選任の件 [報告事項] 1) 2022年度事業報告の件 2) 2023年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第21回評議員会 (決議の省略)	2024年3月29日	議案 理事1名選任の件	原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 —上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第39回科学技術振興関係マツダ事業助成の募集	2023年4月～5月	中国5県が対象
第39回マツダ研究助成(科学技術)の募集	2023年4月～5月	全国の研究者対象
第39回マツダ研究助成(青少年)の募集	2023年4月～6月	全国の研究者対象
第39回青少年健全育成市民活動支援贈呈式	2023年4月	4月12日広島、4月19日防府実開催
大学寄付講義(広島文教大学)	2023年5月～8月	集中講義およびボランティア実習
2023年度選考委員会(科学技術振興関係)	2023年7月28日	第39回マツダ研究助成候補の審議・選出
2023年度選考委員会(青少年健全育成関係)	2023年8月1日	第39回マツダ研究助成候補の審議・選出
感動塾・みちくさ	2022年8月	(公財)広島市文化財団と共催
第2回若者ツナフェスタin久比 開催	2023年8月27日	若者×ツナグバ2団体が集結
第39回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	2023年10月～11月	科学技術振興関係/青少年健全育成関係
第40回青少年健全育成市民活動支援/第4回若者×ツナグバの募集	2023年10月～2023年1月	広島県、山口県対象
第3回若者ツナサミット開催(オンライン)	2023年12月23日	成果報告会および若者の意見交換会
2023年度成果報告会	2024年2月12日	青少年関係研究者と市民団体の集い
2024年度選考委員会(青少年健全育成関係)	2024年2月24日	第40回市民活動支援候補の審議・選出
第4回若者×ツナグバ プレゼン審査	2024年2月23日	若者×ツナグバ支援対象の審議・選出
科学わくわくプロジェクト 専門家による科学教室	2024年3月28日	

IV. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛 先	申請等年月日	申 請 事 項 等
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2023年4月18日	理事変更の届出
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2023年6月30日	事業報告等の提出
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2023年7月31日	評議員変更の届出
内閣総理大臣（内閣府大臣官房公益法人行政担当室）	2024年3月29日	事業計画書等の提出

V. 登記に関する事項

登 記 先	登記年月日	登 記 事 項
広島法務局	2023年3月31日	山内 真氏 理事を退任
	2023年4月1日	井上 紀文氏 理事に就任
	2023年4月6日	理事の変更登記
	2023年6月23日	菅田 淳氏 評議員を退任
	2023年6月23日	矢吹 彰広氏 評議員に就任
	2023年7月13日	評議員の変更登記

VI. 附属明細書

2023年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。